

【背景】

「多様で複合化した社会課題に対応していくため、幅広い世代の参画の下、地方公共団体、大学等、企業・団体、NPO、地域住民等の多様な主体の連携により、地域社会の課題解決に取り組むためのプラットフォームの構築や活用の促進を図る。

その一環として、幅広い世代から地域社会の担い手を確保するため、地域の仕事や社会活動、学習機会等の情報を一元的に把握でき、それぞれの働き方のニーズや状況に応じて個々の業務・作業等を分担して行うモザイク型のジョブマッチングを含め、多様な活躍の機会が提供される仕組みの構築を図る」

（高齢社会対策大綱（令和6年9月13日閣議決定）抜粋）

【本事業の目的】(令和6年度補正予算:4000万円)

地域社会の高齢化が進展する中で、地域課題の解決に向けて、現役世代を含む幅広い世代の住民の地域活動への参画を促進する仕組み(マッチングのためのプラットフォーム)を構築する実証事業を通じて、効果や課題を検証し、全国展開を図る。 ※本事業の実施に当たっては、対象地域の自治体から認定を得ることが条件。

《必須実施事項》

- 現役世代も念頭に置きつつ、幅広い世代・属性の住民の交流促進や地域との接点として有機的に機能する拠点の形成
- 地域が必要とする活動と住民との「マッチング」の仕組みの構築・実施

【令和7年度委託団体】

団体名	事業名	認定自治体
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター	「ジョブボラ」モデルによる地域活動マッチング:社会参加消極層をも取り込む仕組みの構築	東京都板橋区
一般社団法人 横浜イノベーション推進機構	個・孤の時代のライフデザインと多世代参画の地域活力推進プラットフォームの構築	神奈川県横浜市
特定非営利活動法人 コミュニティー・サポートセンター神戸	都市型多層ごちゃまぜプラットフォーム(PF)調査事業	兵庫県神戸市
特定非営利活動法人 介護予防で日本を元気にする会	熊本市 多世代おたがいさまネットワーク構築	熊本県熊本市
社会福祉法人 三股町社会福祉協議会	地域における装置的な場づくり事業	宮崎県三股町

## 論点別考察

### 1)本事業における「地域の社会課題」の射程

- ・ 特定分野に焦点を当てない「分野横断的な」仕組みづくりのためには、各分野の活動の性質を踏まえた検討が必要(特に福祉分野の活動)。
- ・ 住民の感情から地域活動、住民の出番等を創出するアプローチも重要。

### 2)潜在的関心層とのリアルな接点の創出

- ・ 常設拠点: 生活動線上の立地、気軽に立ち寄れる雰囲気作りが重要。
- ・ イベント・情報発信: 現役世代の参加を促す時間設定(夜間)、オンライン活用、ターゲットに合わせた開催場所、住民に「楽しそう」と思わせる情報発信の工夫。

### 3)地域活動の設計

- ・ 「地域が必要とする活動と住民とのマッチング」の対象となる「地域活動」の設計については、実施団体の性質や対象とする地域の社会課題の性質に応じて様々なアプローチ  
(例)地域団体の既存の活動が対象、活動の「モザイク化」(細分化)による参加ハードルの低減、自治体の地域目標からの活動創出、住民の感情(ニーズ・シーズ)からの活動創出

### 4)マッチングに関するその他論点

- ・ マッチングサイト: 登録制(詳細情報により効果的なマッチングが可能)と都度申し込み制(参加ハードル低減)の選択。
- ・ インセンティブ: 「社会貢献」「自己成長」といった内発的動機付けに加え、交通費、謝礼、地域ポイント、学生向け証明書などの外発的インセンティブも有効。

### 5)地域における連携体制の構築

- ・ 行政: 分野横断的な仕組みづくりには、企画部局の関与や首長などのトップマネジメント層の関心が重要。  
官民連携については、広報協力や地域ポイント活用は進めやすい分野。一方で、個人情報保護が大きなハードル。
- ・ 社会福祉協議会・NPO・自治会・ボランティアセンター: 既存ネットワークの活用、プライバシーに配慮した情報共有、イベント協力など。
- ・ 教育機関・企業: 若者へのアプローチとして大学・専門学校との連携(学びの実践の場として)、企業からのリソース提供。

### 6)コーディネーターに求められる役割と人材育成

- ・ 役割: マッチング、案件形成、組織間連携の3つに大別。
- ・ 能力: 課題把握力、傾聴力、調整力、コミュニケーション力、信頼関係構築力、地域への関心など。
- ・ 人材育成: 組織内でのOJTやケースメソッド等の研修、住民向け講座、必要なスキルやマインドセットを言語化・汎用化し、育成することが重要。

## 初年度の総括

- ・ 「住民はみな潜在的な地域の担い手である」という認識を前提とした仕組みづくりを行うことが必要。
- ・ 地域の課題と、住民のスキル、関心や制約等をすりあわせながら、地域の活動を設計していくことが重要。
- ・ リアルとデジタルの融合した仕組みを構築することが必要。

## 今後の課題

- ・ マッチング精度の向上
  - ・ 評価指標の確立
  - ・ コーディネーターの人材育成
  - ・ 仕組みの自走化に向けた体制構築及び地域との連携(デジタル・AI活用による事務の効率化を含む)
- ※以上のような課題の検討と並行して、全国の他の自治体においても多世代・分野横断的なプラットフォームの構築が広がるような施策について検討を進めることが必要。